

ロータリー理解月間



ロータリー情報
委員会
委員長 斎藤 正

♪ロータリーソングの生い立ち♪

例会時 会長点鐘後ロータリーソングを歌います。

週1回の例会ですので月4曲歌うわけですが、そのロータリーソングの生い立ちというか、誕生の歴史を振り返ってみたいと思います。現在日本で唱われているソングは25曲です。

“ロータリーの友”事務局でC.Dに収め発行されています。

今日は其の25曲全ての紹介ではなく北クラブで唱われしかも代表的なソングと言われている5曲に就いて誕生した背景を紹介してみたいと思います。

日本での日本語ロータリーソング全て公募され入選作が唱われ続けているわけですが、代表される5曲（四つのテストも含め）の歌詞の誕生した年代、作詞、作曲者を記してみました。

奉仕の理想 1935年（昭和10年）

作詞：前田和一郎（元京都RC）

作曲：萩原 英一（元東京RC）

我等の生業 1935年（昭和10年）

作詞：高野 辰之

作曲：岡野 貞一

手に手つないで 1951年（昭和26年）

作詞：矢野一郎（東京RC）

作曲：〃

編曲：藤山 一郎（東京RC）

それでこそロータリー 1951年（昭和26年）

作詞：矢野一郎（東京RC）

作曲：〃

編曲：野田精一（東京RC）

四つのテスト 1931年（昭和6年）

作詞：ハーバート・テラー

作曲：水谷 暢宏（相模原南RC）

□歌を唱った動機とは

1905年ポール・ハリスが3人の仲間と共にアメリカのシカゴでロータリークラブを創設したのはご承知の通りですが、2年間、クラブでは奉仕協調派と親睦派の間に激しい討論があり、これを境に出席率も低下しクラブの崩壊寸前になった時、5人目の会員になった印刷業のハリー・ラグルスが自ら立ち上がって「おい、みんな唱おう！」と当時流行っていた歌を何曲か音頭を取って唱ったのが始まりであるといわれています。

歌によって例会場の雰囲気を変えようとしたものです。これを契機にハリーの音頭により例会にはみんなで合唱し歌を通して会員同志の心が和み親睦が深まりクラブ解散の危機を脱したといわれています。

日本では1920年に東京ロータリークラブが最初のロータリークラブとして創設したわけですが、初めの頃は英語のまま唱っていたそうです。

当初はアメリカ会員E. D. パートンが会員に唱わせようとして指導したものの、皆「児戯に類する」としてあまり乗り気でなかったようですが、努力を重ねた結果1927年のI. M.の時に会議中にも会議後の観光バスの中でも会員の家族が中心となってロータリーソングが唱われ会員もやっと、唱うことが親睦の源であると理解したと東京RCの記録に残されているとのことです。

家族が日本のロータリーに唱うことの意義の原動力となったのです。

やがて日本語によるロータリーソングを求める声が高まり前記の如く公募によって次々とロータリーソングが誕生しました。「奉仕の理想」「我等の生業」は1935年（昭和10年）に京都の地区大会で発表され1949年日本

が国際ロータリーに復帰1951年に「手に手つないで」が作られた。これは1952年（昭和27年）7月から日本のロータリーが2つの地区に分かれるという事態に当たりこれからも友情を確かめ合い手に手つないで行こうと誓い合った歌です。

「四つのテスト」は1931年（昭和6年）アメリカでの大恐慌時代倒産の危機にあった会社の再建をハーバート・テラーが手掛けた時に生まれた詞です。1920年にアメリカでは禁酒法が施行され‘33年まで続くわけですが、その間、密造酒を巡って凄まじいギャングの抗争があったという社会的な背景

のなかでの出来事の一面だったのでしょうか。「我等の生業」「奉仕の理想」もほぼ同じ内容ですが共に平和と親睦の目的に向かって、社会奉仕、国際奉仕、職業奉仕、クラブ奉仕の四部門に通じて努力し自己の職業奉仕を通して世のため国のためになるように、更に世界平和が永遠に続く事を願望している歌詞です。50年以上も唱え続けられているロータリーソングの歌詞を改めて噛みしめながら、これからも唱い続けてゆきましょう。

参考文献

ロータリー役員必携（桐生RC石井省三）

ロータリージャパン

会員の声

「私のこだわり」

金子太一郎

缶コーヒーは「ジョージアのブラック」。年とともに缶コーヒーの好みが変わってきたが、今はこの缶コーヒーにこだわっている。だからコンビニに入って、この缶コーヒーがなかったら気分が悪いのである。

コンビニは「セブンイレブン」。行き慣れたせいか、店のレイアウトがわかっているの、数あるコンビニでも「セブンイレブン」に行きたがる。さらに今はプリペイドカードの「ナナコ」を持っているので、キャッシュレスで購入できる。

スーパーは「原信」。私は女房のお抱え運転手で行くのだが、特別気に入っている酒のつまみが有る。それは「赤ワイン」とこのお店に置いてある「牛のタタキ」。女房の買い物ついでに買ってもらう。この食べあわせがなんとも絶妙なのだ。

ワイシャツは「ボタンダウン」。これは社会人になってからこだわっている。当時トラデショナルが流行っていて、そのまま続いている。靴もローファーでネクタイもストライプ系が好きである。それでも今は臨機応変に対応している。

携帯は「au」。携帯を持参してから15年前後位なるだろうか。当時は「セルラー」だったと思うが同じキャリアを使っている。一時は「アンチドコモ」を謳ってこだわっていた。

それと機械物は備わっている機能を一通り全部使ってみる。取扱書を見て実際に機能を試してみるが、用がない機能はそれまでである。

朝のニュース番組は「ズームインスーパー」。日本テレビ系だが、これは昔からの習慣で見慣れているためかもしれない。今ではアシスタント役の女子アナの西尾さんのファンになっている。朝、テレビをつけると習慣で「ズームインスーパー」にチャンネルを合わせてしまう。内容はたいしてこだわっていないが、見慣れたコーナーが習慣になってしまったようだ。